

2009夏ツーリングVol.1 奥飛騨慕情2009 Again



タイトルとは裏腹に、スタートは**最悪のコンディション**でした。相変わらずストレスだらけの日常で、「バイクに乗って嫌なことを払拭したい」という思いから、雨が降りしきる夜の**圏央・中央自動車道**を走り続けました。

天気が回復したのは、**中央自動車道から東海環状自動車道**に入ってからで、だいぶ明るくなってからのことでしたが、この辺りで**睡魔が襲って**きました。

合掌造りが世界遺産なのは白川郷だけではない



東海北陸自動車道に入り、**ぎふ大和PA**でメッシュジャケットの上に着ていた雨具を脱いで走ったら、これがメチャクチャ寒かったので道路脇の温度計を見たら15°C前後でした。なにせ家を出るとき、中のインナーを取ってしまったので冷気が肌を直撃し、**ひるがの高原SA**で再び雨具を着込んで、休憩がてら写真を撮ったりお土産を買って給油をしました。

「合掌造り」を見るために**白川郷**に行くつもりでしたが、**富山県南砺市(旧上平村) 菅沼合掌集落**にやってきました。



ここは**五箇山(ごかやま)**といわれる地域で、日本の彼方此方で失われていった**原風景**が、ここではしっかりと残っていました。

お邪魔した時間帯が早朝だったので、決して**マナーの良い行動ではありませんが**、ご迷惑にならないようにそっと撮影をしました。

この**原風景**を見ながら「生活が便利で豊かになるほど不幸になっていく**虚しさ**」を感じつつ、何かに追われることもなく、「**スローライフな生き方**」ができるよう、心の中で強く願いました。

念願の安房峠に到達



2005年に初のお泊まりツーリングということで、奥飛騨慕情ツーリングをCB1000SFで行いました。PC内に未完成ながら当時の記録（ブログにも未記載）が残っていたので、掻い摘んで説明します。

この時は国道158号線の一部が大雨によって法面が崩落し、迂回路として上高地乗鞍林道経由で安房峠道路（トンネルで松本市側）前まで行き、そこから峠道に入って安房峠を越えようとしたが通行止めなので、安房峠道路を使って奥飛騨入りをしました。

蒲田川沿いの「新穂高の湯」（ぬるかった）に浸かったり、走り乃神社を参拝してから美女高原キャンプ場で一夜を過ごしました。

翌日は高山市内の「古い街並み」を散策したり、白川郷の「合掌造り」を見てから、高速道路に乗って富山市に行き、繁華街で一杯ひっかけてビジネスホテルで一泊しました。

3日目は北陸自動車道有磯海SAで「ますのすし」と「さばの押しすし」を食べたり、上信越自動車道横川SAでは「峠の釜めし」を食べて帰ってきました。

あれから約4年の歳月が経ち、今回再び安房峠を目指しました。交通量は安房峠道路のおかげでほとんど無く、のんびりと走れました。

峠道を下り松本市側では、上高地へ向かう人の送迎バスが往き来し、狭いトンネル内で大型車とすれ違いに苦労している場面をよく見かけました。「環境負荷をなるべく少なくした上で、狭いトンネルが連続している区間だけ道路整備してもいいかな」と思いました。

松本市内に向かう途中、コンビニで休憩している男女のライダーさんに手を振ったら、大きく手を振って返してくれたことが大変嬉しかったです。

あとは家に帰るだけだったが、今回も上信越自動車道横川SAでは「峠の釜めし」を食べて帰ってきました。

編集後記

相変わらず心身への負担が大きいことには変わりありません。夜中に出発し、「土日祝日1,000円割引」に甘んじて長距離旅を行いましたが、この割引によって痛みを受けている業界があることを忘れてはなりません。

今回も大きな渋滞もなく順調に走ることもでき、歴史を感じることができました。（この緩やかな時間が欲しいと思った）

余談だが「宝くじの1等が当たったらどうしますか？」という質問で、大概是「貯金して他人にバレないように地道に暮らしていく」という答えが多いと思いますが、オイラの場合は「借入金（遊興費ではないが）を返済して、すぐにでも旅に出たい」と常々思っています。

以上です。

今回の旅のデータ

主なデータを掲載しますので、ご参考にしてください。

走行距離	918.2km
走行時間	14時間54分
使用燃料量	47.52ℓ(5,866円 @123円/ℓ)
燃費	19.32km/ℓ
通行料(ETC利用)	
狭山日高～五箇山(中央道経由)	1,300円(通常7,450円)
五箇山～飛騨清見	650円(通常1,300円)
松本～花園	1,000円(通常3,650円)
お土産・その他	10,233円(合計19,049円)

おまけの画像をどうぞ(2005年の画像がメイン)

